

[博士論文審査要旨]

申請者：尻無濱 芳崇

論文題目 介護事業におけるマネジメント・コントロール・システムの研究
—組織の非営利性がマネジメント・コントロール・システムに与える影響—

審査員 尾畑 裕
挽 文子
荒井 耕

営利組織と非営利組織とでマネジメント・コントロール・システムに違いがあるのかないのか、あるとすればどのような違いがあるのかというのが、本論文の基本的な問題意識である。申請者は、営利組織、非営利組織が混在する介護業界に着目して、非営利性とマネジメント・コントロール・システムの関係を探ろうとする。本論文では、まず介護施設経営法人における業績管理システムの実態をインタビューにより調査した。その結果、営利組織と非営利組織で利用している業績管理尺度の種類には大きな違いは見られず、どちらも中心的な業績管理尺度は収益額、稼働率、費用額であり、使命達成測定尺度がほとんど利用されていないことが明らかになる。使命達成測定尺度が社会福祉法人で利用されていない理由も含めいくつかの仮説を検証するために、質問票調査を行っている。そのさい、非営利性を測定する尺度を自ら開発する。質問票調査の分析結果により、介護業界の非営利組織で使命達成測定尺度が利用されていないのは、非営利性の強さが使命達成測定尺度の利用に影響を与えていないためである可能性が高いことを示す。また、非営利性が強い組織では財務尺度の利用確率が低下する傾向が見られること、非営利性の強さは使命達成測定尺度の業績管理上の重視度にも関係がないこと、非営利性が強い組織ほど財務尺度の利用に積極的ではなくなる可能性が示唆された。財務的成功と社会貢献を結びつけて考える程度（財務—社会貢献関連性認識）が強い組織ほど会計的コントロールを重視する傾向があることが示された。また、非営利性の高さと文化的コントロールが関係するとはいえないことも示された。

本論文の貢献は以下の2点であると思われる。

第1に、非営利性を測定する尺度を自ら開発したことである。①低所得者対策の重視度、②労力・コストのかかる対象者受入の重視度、③制度外ニーズへの対応の重視度を考慮して、非営利性を測定しようとしている。既存の尺度ではなく、自ら工夫して尺度を開発したことは、この論文の非常に大きな貢献であり、今後のこの分野の研究に与える影響も大きく、高く評価できる。

第2に、定性的分析と定量的分析を組み合わせて、示唆に富む結論を導き出していることである。とくに、いままで定量的な分析がほとんどなされてこなかった介護業界において定量的な分析を行い、非営利性の高い組織におけるマネジメント・コントロールの特徴について重要な示唆を導き出していることは高く評価できる。

本論文にも問題点がないわけではない。質問票調査のさいに、サンプルが限定的であったことである。とくに医療法人が運営していることの多い老人保健施設が抜けていることが問題である。ただし、この問題点は、申請者の今後の研究にて克服可能なものであり、本研究の価値を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。